男女共同参画社会の実現をめざす情報誌

ともに

2024.10
No.
76

特　集

市制施行 70 周年記念　男女共同参画のいま・未来　P４～７

Contents

・市長インタビュー …… P2.3
「『子育ては楽しまないともったいないよ』と昔から妻に言われてきました」
・ソレイユ通信 …… P8

「子育ては楽しまないともったいないよ」と昔から妻に言われてきました

相模原市長　本村賢太郎

【もとむら　けんたろう】
平成 31 年より相模原市長
家族は妻、娘、犬の「こんぶ」 趣味は釣り

「子育てするなら相模原」を旗じるしとして、誰もが幸せに暮らせるまちづくりをめざす本村市長に、子育て期の男性へのメッセージを、ご自身の経験からありのままに語ってもらいました

私のワーク・ライフ・バランス

私の一日は、朝5時に起床して庭の花に水をやり、金魚とメダカの世話をするところから始まります。

市長という仕事をしていくうえで、現場を大切にしているということもあり、家を空けることが多いのが現実です。でもだからこそ、家にいられる時間は大事にしています。家事とは言えませんが、紙箱をつぶしてまとめるとか、隙間時間で簡単な片付けや掃除はしていますし、余裕があるときは料理をすることもあります。先日、野菜を知人からいただいた時は、ゴーヤチャンプルを作りました。

子どもはあっという間に大きくなる

私にとって娘は、幸せの源です。娘が生まれると分かった時はうれしくて、ただ、自分は母子家庭で育ったので、父親の思い出やイメージがなくて、どんなふうに関わって育てていけばいいのかと、ドキドキしました。

でも正直に言うと、子育ては出来ていませんでした。娘が小さかった頃は政治活動が忙しく、自転車の乗り方を教えた思い出があるくらいで、ぎゅっと抱きしめてあげる時間も満足に取れていませんでした。

その時期の妻は、私をあてにできず、子

育ても大変だったと思います。

そんな感じだったからか娘も、私に対して壁があったというか、必要以上に良い子でいようとしていた気がします。

それが変わったのがコロナ禍の時期です。外出が制限されて娘と家にいる時間が増え、そこから遠慮のようなものがなくなって、娘が生意気を言ったり口ごたえしたりするようになり、本当に何でも話せるようになりました。あの時、家族の絆が深まったと思います。

今、娘は高校生ですが、一緒に料理をしたり遊びに行ったりするのは楽しいですし、私の帰りが遅い時、SNSで何度も帰宅時間を聞いてきて、リビングで寝ながらでも帰りを待っていてくれることがあるのがうれしいですね。

子育て期の男性へ

昔から妻には、「子どもが小さいうちはあっという間で、子育ては楽しまないともったいないよ」と言われていましたが、娘が小さいころの写真を見ていると本当にその通りだと思います。

自身の反省もふまえて、子育て中の男性には、子どもと多くの時間を過ごして欲しいと思います。近頃、ようやく男性の育児休業の取得が進んできましたが、どんどん取る人が増えていって欲しいです。子どものことに心を砕いて、泣いたり笑ったりして欲しいと思います。

また、子どもが大きくなってからでも、向き合うことは大事だと、娘との経験から感じています。近頃は大人びて、ちょっとした小言を言ってくるのも面白いです。

自分の生き方は自分で決める

私は昭和生まれ世代で、その時代を振り返ると、男性は外で仕事をして家族を養って、女性は家を任されて家事や育児という空気があったように思いますが、今はもう違います。情熱を持って仕事に邁進していてすごいなと思う女性は周囲にたくさんいます。

女性のライフスタイルの選択の幅が広がっているのは、とてもいいことだと思います。仕事をしてもよし、趣味を生かして活躍するのもよし、人の数だけ生き方があるのだと思います。

娘も、生き方は自分の意志で決めればよいと思っています。先日、娘と自動運転技術の話をしたのですが、車のハンドルは人や機械任せにせず、自分で握りたいタイプのようなので、きっと人生も同じで、やりたい勉強をして、本人がなりたい職業につくのだと思います。

最近、男性が仕事を辞めて家事育児を担うことにしたという家庭の話を聞きました。

誰もが自分なりの生き方をしていくのがベストだと思います。

それでやっぱり、自分が歩んできた道を振り返って、充実した人生だった、よかった、と思って欲しいし、そんな風に暮らせる相模原にしていきたいですね。

特集 男女共同参画のいま・未来

相模原市は今年、市制施行七十周年を迎えます。様々な分野で、性別を問わず自分らしく活躍できる社会をめざして、先人たちが作りあげてきた道の上に「いま」と「未来」があります。

１０年前と今を比べてみると…

ちょうど１０年前、はじめて男性をテーマに掲げた男女共同参画白書が政府から刊行され「女性の活躍推進やワーク・ライフ・バランスは、男性も含めたすべての人に関わる問題である」という視点が提示されました。

同年に相模原市は市制施行６０周年を迎え、当時の本誌「ともに５６号」では、固定的性別役割分担意識を持つ男性がまだ多いことが示されています。

現在は１０年前に比べると、保育所等の育児基盤や育児休業制度が充実しており、女性が職業を持つことや男女が家庭で果たすべき役割に対する意識は、急速に変化してきています。

１０年前の本誌 市制施行６０周年記念 ともに５６号

本誌「ともに」は平成３年、相模原市初の男女共同参画プラン「さがみはら女性計画」が策定された年に刊行がはじまり、誰もが輝ける社会の実現をめざし、現在76号まで発行されています。

	国・世界の動き	相模原市の動き
S21	初の婦人参政権行使	
S22	民法改正（家父長制廃止）	
S29		相模原市市制施行
S50	国際婦人年	
S60	女子差別撤廃条約批准	
S61	男女雇用機会均等法施行	相模原市第３次総合計画「男女共同参画社会の実現を目指す」
H1	高校家庭科男女必修化	
H3		さがみはら女性計画策定
H4	育児休業法施行	さがみはら男女平等憲章制定

さがみんクイズ

相模原市マスコットキャラクター
さがみん

さがみんが誕生した１０年前の数字を
２つ用意したよ。
今はどう変わっているのかな？

Q1

１０年前の相模原市には、
保育所が１３０ヵ所ありました。
現在は、およそ何ヵ所でしょうか。

①約１５０ヵ所　②約１７０ヵ所　③約２００ヵ所

Q2

約１０年前の相模原市で「男は仕事、女は家庭」
という考え方に反対する人の割合は４５.５％でした。
現在、この考え方に反対する人はどれくらいの割合でしょうか。

①約５０％　②約６０％　③約７０％

（答えは次ページ）

- H11　男女共同参画社会基本法施行
- H12　ストーカー規制法施行
  - さがみはら男女共同参画都市宣言
  - 相模原市立男女共同参画推進センター開館
- H13　配偶者暴力防止法施行
  - さがみはら男女共同参画プラン21策定
- H16　さがみはら男女共同参画推進条例施行
- H24　第2次さがみはら男女共同参画プラン21策定
  - 相模原市配偶者暴力相談支援センター開設
- H27　女性活躍推進法施行
- H30　政治分野における男女共同参画推進法施行
- R2　第3次さがみはら男女共同参画プラン策定
- R6　困難な問題を抱える女性への支援に関する法律施行

to be continued

人々のくらしと意識@さがみはら

子育てを支える保育所の数と利用申請率

平成 27 年		令和 6 年
施設数 130ヵ所	▶	施設数 208ヵ所
利用申請率 32.2%		利用申請率 52.9%

利用申請率…申込者数／就学前児童数

女性が出産後も離職せず働き続けるには、保育所などの充実が必要と、約７割の市民が答えています(※)。就学前児童数は、この１０年間で約７千人減っていますが、保育所の需要は高まっているといえます。

「男は仕事、女は家庭」にＮＯ 性別役割分担に反対する人の率(※)

平成 27 年		令和 5 年
女性 50.8%	▶	女性 73.4%
男性 38.9%		男性 61.8%

性別を理由として固定的に役割を決める考え方に反対する人は大幅に増えていますが、女性と男性の意識の差は約12ポイントあり、１０年前と変わっていません。

世の中は変わってきていると言うけれど… 場面別「男女平等を感じる」人の率(※)

平成 27 年		令和 5 年
職場 16.8%	▶	職場 24.1%
家庭 28.5%		家庭 25.5%

調査（※）によると「職場」では男女平等を感じる人が増えましたが、「家庭」「地域」「政治」などの場面では男女の不平等を感じる人が増えているという結果が出ています。

「男は仕事、女は家庭」という性別役割分担意識は薄れてきており、子どもが生まれた後も共働きを続ける家庭が増え、職場では男女の平等が進んでいるようですが、性別役割分担に関する意識の男女差は縮まらず、日常生活においてはむしろ男女の不平等を感じることが多くなっているようです。

※　令和５年相模原市　男女共同参画に関する市民意識・事業所調査報告書

さがみんクイズの答え

Q1　❸約200ヵ所

令和６年４月時点で、相模原市には認可保育所や認定こども園が**２０８**ヵ所あります。１０年前から大幅に増えています。

Q2　❸約70%

「令和５年相模原市　男女共同参画に関する市民意識・事業所調査報告書」によると、「夫は外で働き、妻は家庭を守る」という考え方に反対する人の割合は**６８．１**%。１０年前の約1.5倍です。

未来につなげる男女共同参画

市制施行７０周年記念座談会
「この街に暮らす一人ひとりの男女共同参画を語り合う」より

令和6年6月30日に相模原市立男女共同参画推進センター（ソレイユさがみ）で行われた座談会「この街に暮らす一人ひとりの男女共同参画を語り合う」では、相模原で男女共同参画がどのように進んできたのかを振り返るとともに、未来への思いが語り合われました。

相模原の女性たち

相模原で昭和29年に市制がスタートした時、人口は約8万人でしたが、高度成長の波に乗り、昭和53年には40万人を超えました。市制スタート時の約5倍です。

この時期、急激な人口増加にインフラ整備が追い付かず、特に学校建設が大きな課題となり、多い時には毎年約5校の小中学校が造られました。

すると当然ですが、高校も足りなくなります。

そこで相模原の女性たちは、ＰＴＡ活動を積極的に担い、高校増設の要望を行うなどの行動を起こしました。この活動は県立高校が増える原動力のひとつとなったそうです。

こういった女性の活動のベースには、公民館がありました。相模原は社会教育が盛んなことで有名でした。女性たちは公民館で行われる婦人学級に参加し、学習グループを作って学び、家庭や社会を変える力をつけてきました。自治会などの地域活動にも多くの女性が関わりました。

未来へのエンパワーメント

相模原の女性たちは、生活しながら地域で学びを積み重ね「男は仕事、女は家庭」という伝統的価値観をゆっくりと変えていきました。結婚を機に退職する寿退社の慣習は過去のこととなり、キャリアを積み重ねて女性管理職となる選択も今は特別なことではありません。

この男女共同参画の流れを未来へとつなげていくためには、どうすれば良いのか、ということが参加者それぞれの身近な経験をもとに、話し合われました。

・男女の役割は時代と共に変化している。古くても良い習慣は大事にしたいが、因習にとらわれる必要はない。

・相模原には多くの外国人が住んでいる。男女共同参画を考える際にも共通する部分があるが、「多様性」の理解は不可欠である。

・女性活躍やワーク・ライフ・バランスの充実につながる諸制度の整備や、民間企業への働きかけなど、男女共同参画を推進する行政の取り組みが必要である。

・地域でのつながり、交流の大切さは昔も今も不変だと思う。

・ソレイユさがみのような場所ではこれからの時代を担う若い世代、なかでも学生とともに、個を尊重するジェンダー平等の学びや取り組みを進めるとよい。

参加者の様々な体験と実践をベースとした話し合いで共有したのは、男女問わず誰もが自分らしい選択ができる社会を、という願いでした。

また、家庭や職場で男女の不平等をなくしていくには、人の考え方はその生い立ちなどにより様々という前提で、相手を無理やり変えようとせず、関わりの中で理解し合うことが大事だということ、つまりジェンダー平等をもっと実感できるようになるには、これからもたゆまず、地道に一歩ずつ進んで行くことが大事だということを皆で確かめました。

相模原市立男女共同参画推進センター（ソレイユさがみ）　館長　加藤　由美子

ソレイユ さがみ通信

https://www.soleilsagami.jp/

仕事も子育ても楽しもうとする
お父さんのための
講座を開催しています

問合せ・申込み先　ソレイユさがみ

TEL 042-775-1775

10/12（土）
お父さんと一緒 親子ふれあい 運動あそび

時間 10:30～11：45
定員 10組
未就学児とその保護者（男性優先）

10/26（土）
成長の記念に♡ お父さんと一緒 手形・足形 アートづくり

時間 10:30～正午
定員 10組
未就学児とその保護者（男性優先）

11/16（土）
永野　むつみさん 子育て講演会 ことばよりも語るもの

時間 10：00～正午
定員 50名（パートナーも参加OK）

11/17（日）
社会保険労務士による講座 家族の将来を変える「夫婦の働き方と年金」

時間 10：00～正午
定員 20名（パートナーも参加OK）

２歳以上の未就学児対象の保育を行っています（要予約）。講座の空き状況や内容などは、お気軽にお問合せください。

ソレイユさがみ（相模原市立男女共同参画推進センター）は、
一人ひとりが自分らしくいきいきと生きることができる男女共同参画社会の実現を図るための活動拠点です。

〒252-0143 相模原市緑区橋本６－２－１　シティ・プラザはしもと内（イオン橋本店６階）
ＪＲ・京王橋本駅北口徒歩１分　TEL 042-775-1775　FAX 042-775-1776

ソレイユさがみは、指定管理者「特定非営利活動法人男女共同参画さがみはら（ＮＰＯ法人サーラ）」が管理・運営しています。

発行　相模原市役所（人権・男女共同参画課）〒252-5277 相模原市中央区中央 2-11-15　電話 042-769-8205（直通）
協力　さがみはら男女共同参画推進員（岸克彦、新藤杏実、高宮剛、長谷川涼子、村上治美）